

箕輪町高齢者福祉部会 会議録

日時 令和8年5月26日(火)13:15-15:15

場所 箕輪町役場 2階 大会議室

出席委員 別紙6名 / 福祉課

1. 開会

2. 福祉課長あいさつ

小池課長よりあいさつ。介護保険計画は 3 年ごとの見直しがあり、今後の課題を含めて皆さんと協議のうえ課題を整理していきたい。スケジュールに沿いながら実りある会議になるようご協力をお願いします。

3. 委員自己紹介

4. 計画の概要と策定委員の役割について

① 計画の位置づけと策定委員の役割 資料2

⇒介護保険事業計画、高齢者福祉計画の 2 点を協議していく。

② 検討スケジュール 資料3

⇒令和 8 年度 10 月を目途に検討を進める

5. 策定委員会正副委員長選出

⇒立候補なし⇒事務局提案⇒異議なし

委員長:藤田委員

【就任あいさつ】上伊那医療生協では医療、介護、福祉を中心に地域へ関わっている経過もあり、今回、このような形で携わることができるのは光栄に思います、お願いします。

副委員長:浦野委員

【就任あいさつ】民生委員としての経験を生かして意見が言えればと思います。

6. 協議事項(各項目ごと担当者より説明)

① 高齢者福祉計画 第9期介護保険事業の評価について 資料

【意見・質問】

委員:5 ページ。制度の複雑さもあるが、地域住民への周知はどうしていたか。

委員:5 ページ。重度化に関しては、分析はどうか。

委員:7 ページ。普通の暮らしとは？どのような定義。

⇒福祉課:今までの経過だと相談があった方への周知のみ。重度化に関しては、個別性も高く分析が難しい側面はあるが、サービスの在り方として、「してあげる支援」が多く、本人の活動量が阻害されている可能性はあり。また、デイサービスでも座る時間が長く、状態に対する改善を目的としたサービスが提供されていない可能性は高い。

本来、デイサービスやヘルパーはイレギュラーなことではあり、「普通の暮らし」とはかけ離れている。普通の暮らしを行政で定義することは難しい。なぜなら、人それぞれ違う「普通」があるため。だから、短期集中予防サービスという個別性に合わせたサービス設計を行い、今後対応をしていきたい。

委員:10 ページ。近所付き合い。提案だが、各民生委員や事業所に窓口設定をしたらどうか。

⇒福祉課:生協としてはどのような考え方か。

⇒委員:地域密着型の事業所はあり、国からもその相談システムを構築したいといわれている。そのため、積極的に生協としても取り組んでいきたい。

⇒福祉課:積極的に協力関係でいきたい。

⇒委員:なかなか、そういう身近な相談窓口って広がりを持てない。自分に関係がないと意識しない。どうしたらよいか。

⇒委員:社協としてはアウトリーチをする中で、地域の中に入り込むような機会をどうつくっていくかが課題。今後、小学校区での地域の支えあいの仕掛けを実施していきたい。

⇒委員:普通の暮らしは私も課題感を持って取り組まなきゃいけない。私は今は健康だが、友人の方々は病気や認知症などで生活できなくなった方々は多い。私の見解とすれば五体満足で誰にも迷惑はかけないのが「普通の暮らし」ではないか。データから見ても日進月歩で大きな改善できていないのが実情。「普通の暮らし」は個人差があるため、複雑であり、この検討会で考えていければではないか。

一つ個人的な質問で 19 ページの南小のみに認知症サポーター養成講座を行っている理由はあるのか？

⇒福祉課:南小学校との繋がりのある人がいたため、入った。

⇒委員:おじいちゃん、おばあちゃんが今後、どうなるかを知ってもらうのによい。

委員:5 ページのことでハットした。最近の方で地域の方をつないだけど……。いろんな人を回るけど人それぞれ。家族の思いをいけば家族が優先。

委員:こうなったらいいなあ。的な考えですが、自宅でグループホーム的なものを作るのもいいのではないか。

福祉課:箕輪町として、地域共生社会を目指すために、地域に根差して、本人が地域で活動ができる場を作成していきたい。

委員:私もサロンを運営しているけど、男性が参加できない。一歩が出ない人が多い。どうやって働きかけていけばいいのか……。

委員:八乙女区としても、一人暮らしの高齢者に対して対応を考えている。このサービスってある主、余計なお世話。手の突っ込み方次第で代わってくる。行政レベルと民間レベルで違うと思う。消費者詐欺とかも関わったことがあるが、周知しても自分事として感じていない。ただ、現在の地域住民って高齢者は知らないことが多い。私は建築の仕事をしてきたが、おばあちゃんやおじいちゃんと暮らす人がいない。そういったことなら、高齢者がどういう人なのか知ってもらう機会が必要なのではないか。大きな効果がでるものではないが、継続的にやっていくのが重要。

委員:変な時代になった気がする。子どもに迷惑かけないように考えている人が多い。でも、子供たちとかかわる中では、子供も学ぶことが多いだろうし、高齢者も得られるものが多い。

委員:日常生活自立支援に関して、入院手続きや死後事務に関して、箕輪町での現状はどうか。⇒入退院手続きや死後事務は支援にはない。基本的には生活している中での支援になってきている。入退院支援や死後事務は後見人かと思われる。国会では、令和 9 年度 4 月より日常生活自立支援事業にて身寄りのない高齢者の急増に対応するため、拡充の動きはある。

委員:13 ページ。電子連絡帳に関して、現時点での活動実態と課題について。

⇒情報共有としては、120 件程度。動画や画像を持ち合わせながら情報共有を行っている。現在、国でも DX 化が進む中、色々なシステムが提案されてきており、電子連絡帳の役割の分担は必要。電子連絡帳の機能として、地域資源が載せられ

る機能がある。その部分は一般の方も見られる。現在、医療機関の登録が少ないため、今後、その部分を増やしていきたい。

委員：在宅死亡率に関して。有料も自宅と判定になってしまうが、自宅と有料の死亡率もわかれば。

⇒施設の死亡割合は増えている。在宅死亡割合は色々な要素が含まれる。病院は減少傾向。

委員：ある方が施設の見学に行ったときに、一日座っている割合が多い。また、やっている内容も疑問に思うものもある。職員の方でも利用者に対する言葉のかけ方がおかしいかたもいる。

委員：介護職の質の向上は必要。井の中の蛙的に、各事業所での対応となっており、マンネリ化は否めないため、町で交流会や学習会など検討していただければと思います。

委員：いろんな地域でシステムが構築されていると思うが、地域住民に落とし込みができていない印象。その部分でアイデア出しが必要。また、支援者としては、多職種の連携が必要だと思う。やはり、いろんな方々と交流するなかで技術向上に向かうと思われる。

7. その他

町からの連絡事項はなし。

次回開催日 令和8年7月29日(水)13時15分から 役場2階202会議室